

## フォナックFM補聴器説明会・試聴会を開催します。

日時 平成19年10月27日(土) 10:00~12:00

場所 視聴覚福祉センター多目的室

日程 ★ミニ講演『小中学校での補聴援助システムの活用への提言』(仮)

愛媛大学教育学部 准教授 立入 哉 氏

★『新しいFM補聴器の紹介・説明』

フォナック・ジャパン(株)FM担当 川津 潤 氏

★FM補聴器の試聴・デモ

主催 松山聾学校・視聴覚福祉センター聴能部

※ 新しくなったFM補聴器については裏面をご覧ください。

このたび、電波法の改正が行われました。これは、従来の75MHz帯を維持しながら、新しく169MHz帯を、教育用FM補聴器をえる周波数帯域に定めたものです。

欧州では、すでに169MHz帯が、教育用FM帯域として統一基準とされてきました。しかし、日本では、そうした法整備ができず今まで先延ばしにされてきました。

今回の改正によって、これまで海外でしか使用できなかったFM補聴援助システムが、日本でも導入できるようになりました。

県内の難聴児、また就学を控えた幼児も、この電波法改正と新しい性能のよい補聴システムの導入を首を長くして待たれていました。

そこで、この性能の良くなったFM補聴器の紹介をする説明会を

実施することに致しました。聾学校と視聴覚福祉センターとの共催で企画しています。

愛媛大学の立入先生にも、御厚意で、ミニレクチャーをしてもらいます。

興味のある方は、御参加ください。

当日は実際に、試聴も可能です。

## 聴力測定を行う、オーディオメータの機械が新しくなりました！

このほど、聴力検査室の測定器として、リオン社のオーディオメータAA-76が入りました。

このオーディオメータとセットで、プレイボックスも整備されました。

これによって、特に1歳から3歳程度のお子さんにCORという検査方法で聴力測定が可能になりました。また、電池などで動くおもちゃや、パトライトも接続可能

となり、幼児さんが飽きずに検査ができるようになりました。

これまで使っていた、電車が走るプレイオーディオメトリもこれま

でと同様に使用できるように改造してもらっています。



## 新しいFM補聴器は、どう変わったの？ FM補聴器って？

補聴器に入ってくる音や声は、音源から距離があると小さくなり、聞きたい音の他に別の音があれば、それも同時に拾ってしまいます。

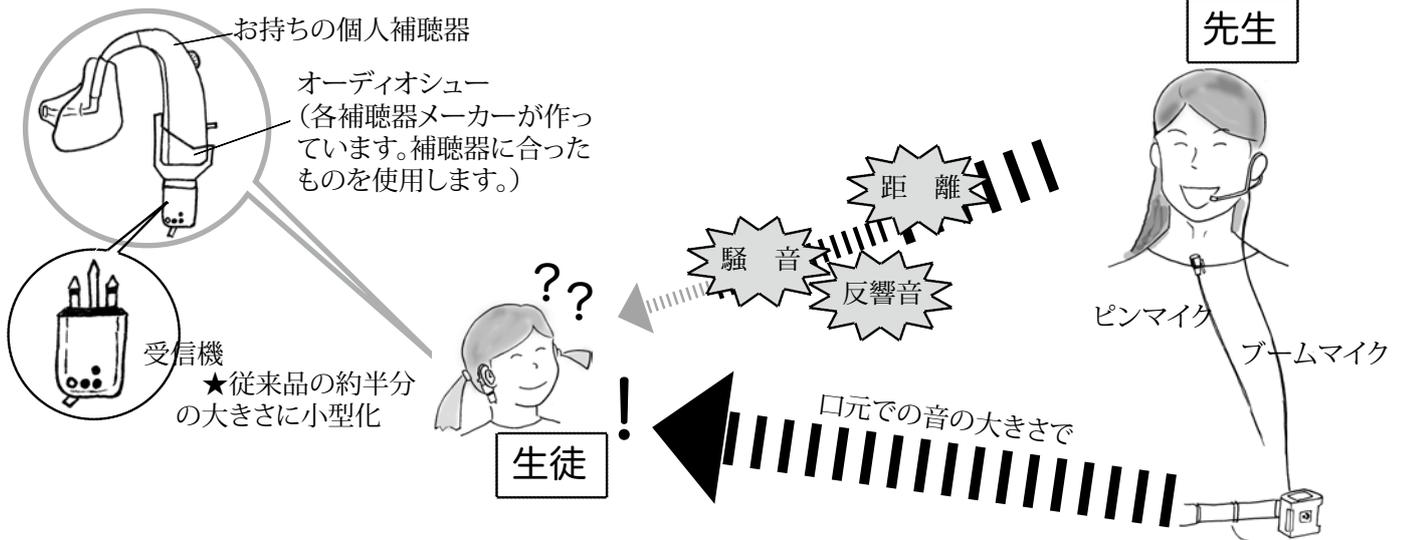
そのため、聴こうとする音や声

と補聴器の間に距離がある場合、音が小さくなるとともに、雑音にまぎれて目的の音が聞き取りにくくなります。

FM補聴システムは、先生の口元に置かれたマイクで、声をFM

電波を利用して直接補聴器に伝えるシステムです。

これによって、周りの騒音や反響音の悪影響をなくすることができます。



大きく変わった点

★従来(75MHz帯)のものでは、使用可能距離が約10mでしたが、約30mに向上。広い体育館や、屋外でも使用可能になりました。

★複数の生徒へ使用する場合、従来のが、3チャンネルしか設定できなかったのが、15チャンネルまで設定可能になりました。また、送信機でチャンネル変更可能なので、従来はそれぞれの生徒用にそれぞれのチャンネルの送信機が必要でしたが、送信機は1台でOKになりました。



★マイクは、耳に掛けて使用するブームマイクと、襟やネクタイに取り付けて使用するピンマイクの2種類から選べます。

## 聴覚障害者用屋内信号装置シルウォッチが、テレビで紹介されました。

聴覚障害者用の福祉機器「シルウォッチ」がTBSのドキュメンタリー番組『夢の扉』(9月16日放送・30分番組)で紹介されました。

開発秘話を含め、聴覚障害者の生活や屋内信号装置がどんなものか分かりやすく説明されています。DVDに録画していますので試聴希望の方に、貸出し可能です。



### シルウォッチって、どんなもの？

身の回りの情報を腕時計などに、文字と振動、光などでお知らせする装置です。玄関のチャイム、FAXや携帯電話の着信、窓口での呼び出し、火災警報器の警報音、赤ちゃんの泣き声などが分からないときに役立ちます。

日常生活用具の対象となります。

対象:聴覚障害2級(聴覚障害者のみの世帯及びこれに準ずる世帯で日常生活上必要と認められるもの)